



文京区ケアプランデータ連携システム活用促進事業

先行支援事例報告

≡ 先行支援の概要①

≡ 実施内容

先行支援として、委託事業者（株式会社ビーブリッド）が伴走を行い、高齢者あんしん相談センターと連携するサービス事業所間で、ケアプランデータ連携システムを使用して、2月分の提供表（予定）及び実績の送受信および介護ソフトへの取り込みを実施しました。

🏠 参加事業所

👤 介護予防支援

- 高齢者あんしん相談センター大塚
- 高齢者あんしん相談センター富坂
- 高齢者あんしん相談センター本富士
- 高齢者あんしん相談センター駒込

🚚 サービス事業所

- 在宅看護センター本郷
- 訪問看護ステーションけせら
- ヘルパーステーションせら
- ケアワーク弥生
- 文京大塚高齢者在宅サービスセンター

≡ 先行支援の概要②

今回はトライアルとして区からの依頼に基づき、下記の組み合わせで1~2名の利用者分のみデータ連携を行うこととしました。

	在宅看護センター 本郷	ヘルパーステーション せら	訪問看護ステーション けせら	文京大塚高齢者 在宅サービスセンター	ケアワーク弥生
富坂			1		1
大塚				2	
本富士	1	1			
駒込					1

📄 伴走支援内容

- ✔ データ連携に先立ち、ケアプランデータ連携システムの利用状況や不明点などについてビーブリッドから各事業所へヒアリング。
- ✔ システム未導入の事業所に対しては、アプリ・電子証明書のインストール、利用申請の支援および操作・運用方法についてレクチャー。
- ✔ データ連携を行う二事業所で、連携開始前に流れを確認するための打ち合わせ。
- ✔ 文京区専用サポートデスクによる技術支援。
- ✔ データ連携後の実施状況ヒアリング。

📌 実施結果① ケアプランデータ連携の操作は簡単

実際にケアプランデータ連携を行ってもらったところ、今回のタイミングでシステムを導入した事業所でも、特に問題なく介護ソフトでのデータ出力・取込、ケアプランデータ連携システムでの送受信の操作を行うことができました。

😊 操作性への肯定的な評価

「システムや介護ソフトそのものの操作は簡単で、マニュアルを見なくても直感的に分かる」

「ドラッグ&ドロップするだけでよく、操作自体は思ったより簡単」

✓ 日頃、介護ソフトを使用して業務を行っている職員であれば、操作は難しくないことが確認できました。

💬 実務上の不便さ（課題）

一方で、実際に使用してみて感じた課題として、以下のコメント等がありました。






「一度、介護ソフトからデータを出力して、それをケアプランデータ連携システムから送るため、ワンクッション必要」

「データが送られてきたときにメールのように通知が来ない」

📌 実施結果② FAX・郵送やデータ入力作業の削減に期待

今回はトライアルとしてデータ連携を行う利用者を限定したため、効果を感じづらかったものの、実施後のヒアリングでは主に下記の点について削減を期待できることが確認されました。

📌 削減を期待できる作業・経費

-  FAX送信作業
-  郵送の仕分け・封入作業
-  実績を介護ソフトに手入力する作業
-  紙で送付したものをスキャンしてデータ化するための作業
-  紙を印刷するのにかかる経費

💬 現場からの期待の声

「実績の内容確認自体は返戻防止のため引き続き必要だが、手打ち部分が減るため、丸1日かかっている作業が半日程度になる」

「今はFAXでバラバラに実績が返ってくるため、期限を揃えてまとめて受け取れる運用にできれば、仕分けや取り込みの手間が大きく減る」

⚠ 実施結果③ 介護ソフト同士の相性や設定の仕方で課題あり

今回のトライアルの中で、各事業所が使用している介護ソフトの違いや事業所側での設定方法の違いより、下記のような問題が発生しました。

📁 発生した問題

- ⚠ 介護ソフトが対応しているケアプランデータ連携標準仕様のバージョンが異なり、データが取り込めない。(V4とV3では連携不可)
- ⚠ 単位数の持ち方の設定が異なり、実績を取り込んだ際にずれが生じた。
- ⚠ 提供表を送っていても、サービス事業所側が取り込んでおらず、もともと入力済だった予定でサービスを行った結果、実績がずれてしまった

❗ 特にデータ連携を開始した初期の期間は事業所間で調整が必要。

💬 現場のコメント

「ソフト同士の親和性がなく、単にデータを繋ぐだけという感じで作られており、送信側・受信側双方で戸惑う。1つ1つソフトの相性があるので、これは数を打って潰すしかない」

「サテライト事業所が別名を使っているケースで介護ソフトへの取込時にエラーとなり、データを修正する作業が必要になった」

📄 実施結果④ 導入＝すぐ時間削減ではないと心得る

ケアプランデータ連携の操作は簡単である一方、連携先が増えていかないと削減効果が出ないことについては、各事業所とも冷静に評価していました。

🔄 過渡期の業務量に関する懸念

過渡期においては従来通りのFAXや郵送による作業も残るため、以下のようなコメントがありました。

「完全移行は難しく、過渡期はFAX・郵送・手渡し・データ連携が混在するため、むしろ一時的には業務量が増える」

「しばらくはデータ連携とFAXの両にらみで運用するしかない。導入したからといって、提供表送受信から実績取り込み、国保連伝送までがすぐ一気通貫で回るわけではない、という理解共有が必要」

📈 今後の普及拡大への期待

導入する事業所の拡大については、処遇改善加算への期待から以下のコメントがありました。

「処遇改善加算の要件に組み込まれることで、動き始める事業所は増える」

「処遇改善加算の件にはみんな敏感なので、導入先はどんどん増えていくのでは」

💡 その他に分かった、ケアプランデータ連携システム導入時のポイント

1

🔑 「KJ」から始まるID・パスワードの紛失

ケアプランデータ連携システムの利用申請やログイン、電子証明書の設定に必要な「**KJから始まる14桁のユーザーIDおよびパスワード**」について、特にログインパスワードを過去に変更しており、分からなくなっている事例が複数ありました。

i 理由：代理請求を行っている事業所がほとんどで、普段の業務で「電子請求受付システム」を使うことがないため。

2

📄 古い「J」から始まるIDしか手元にない

「電子請求登録のお知らせ」などの書類は手元にあるものの、記載されているIDが「**Jから始まる古いID**」（ISDNで伝送していた頃のもの）しかないケースも確認しました。

i 影響：この古いIDではケアプランデータ連携システムは利用できません。



どちらのケースにおいても、ケアプランデータ連携システムの利用を開始するためには、速やかに国保連へ「ID・パスワードの再発行」の手続きを行う必要があります。

まとめ



操作は誰でも簡単

ケアプランデータ連携システムの操作は誰でも簡単、パソコンが苦手でも心配する必要はありません。



導入事業所は全国的に増加中

処遇改善加算への対応でシステムを導入する事業所は全国的に増加中です。一早く導入することが業務改善の鍵となります。



事業所同士の調整が大切

データ連携をスムーズに進めるには、事前のすり合わせなど事業所同士での調整が大切です。